

内容

『門前のパンダちゃん』という絵本の読み聞かせをしました。

この本は、令和6年 1 月 1 日に発生した能登半島地震で、大きな被害に遭った、石川県輪島市門前町にある祖母の家で大切にしてきたパンダのぬいぐるみの目線で、8 歳の小学生が描いた物語です。児童はとても静かに真剣に聴いてくれました。

私が、「この本は君たちに何を伝えたいと思う？」と問いかけました。私は、「能登半島地震のことを忘れてほしくない。このような大きな地震は、日本のどこでも起こりうることだから日頃からの備えをしてほしい、と訴えていると感じました。」と話して講話を終えました。

（この本を作製したのが当時小学4年生と伝えた時、とても驚いていた6年生の姿が印象的でした。）

本講話のねらい

地震大国日本では、南海トラフ地震や首都直下型地震がいつ発生してもおかしくないとされています。東日本大震災の記憶がほぼない今の小学生に我々が伝えるべきことは、多くの大震災を経験したこと、今後の備えをできる限り万全にして有事の際には冷静に行動することだと思っています。

児童は1日のうち 2/3 は学校外で過ごしています。友達と遊んでいたたり、習い事だったりと家にいない時に災害に遭遇した時のことを是非ご家庭でも話し合ってみてください。